



部会だより

コロイドおよび界面化学部会

九州支部の活動

第32回九州コロイドコロキウムの開催と今年度の活動予定

コロイドおよび界面化学部会・九州支部の主要な活動に「九州コロイドコロキウム」の開催があります。これは今より30年ほど前に、九州大学理学部の本村欣士先生をはじめとする当時のコロイド・界面化学に関わる研究者方の発案によりスタートしたもので、九州地区の研究者や学生が一同に会してコロイド・界面化学の基礎から先端研究までを学び、自身の知見を深め、情報を共有することを目的とした勉強会です。

昨年度の第32回九州コロイドコロキウムは九州大学理学研究院化学部門の山中美智男先生のお世話で、平成27年11月20日(金)～21日(土)の間、九州大学の共同利用施設である西新プラザにおいて開催されました。初日は、開会の挨拶に引き続いて、修士・博士課程の大学院生による4件の口頭講演の後、徳島大学大学院ソシオテクノサイエンス研究部の松木均先生により「生体膜のモデル研

究：脂質膜相転移の物理化学」というタイトルでご講演いただき、生体膜の主要な構成成分であるリン脂質-水系の温度-圧力状態図に基づいて、相転移や二重膜構造への分子構造の効果を非常に丁寧に解説していただき、参加者の理解が大幅に進みました。引き続いて東京理科大学理工学部の酒井秀樹先生には「新規刺激応答性界面活性剤の開発とその機能」と題して、光照射による分子コンホメーションの変化で誘起される会合体の構造転移について基礎から応用まで幅広くご紹介いただき、参加した学生も大いに理解が深まるものとなりました。

またポスターセッションでは、打ち解けた中にも緊張感が漂う雰囲気の中、学生の日頃の研究成果に対して活発な議論が展開され、最近の研究の進展を互いに共有することができました。その後、会場近くの居酒屋に移動し、引き続き議論を楽しむ者、久しぶりの再会を楽しむ者など、参加者間の交流をより一層深めることができました。

2日目も引き続き学生の口頭講演の

後、九州大学理学研究院の松森信明先生により「脂質膜の統合分析」についてモデル生体膜における分子の分布やダイナミクスに関する最新の分析手法についてご紹介いただきました。今回のコロキウムでは微粒子、固体表面への吸着、ソフト界面への吸着、エマルションなどコロイド・界面化学の主要かつ幅広い分野について8件の口頭講演と14件のポスター発表があり、優れた発表に対して口頭講演賞およびポスター賞の選出も行われ、学生にとっても非常に有意義な発表の場になったと思われます。

なお、今年度の第33回九州コロイドコロキウムは、コロイド討論会後の平成28年9月27日(火)～28日(水)に、西新プラザにおいて「International Kyushu Colloid Colloquium」と題し、国際シンポジウム形式で開催されます。講師としてMichael Gradielski先生(ベルリン工科大)、Ramon Rubio先生(コンプルテンス大)、好村滋行先生(首都大)、石田尚之先生(岡山大)をお招きし、溶液や表面での構造形成やダイナミクスについて議論を深める内容を企画しております。皆様方のご参加を心よりお待ちしております。

今後とも支部活動に対する皆様方の強力なご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

〔2016年度コロイドおよび界面化学部会九州支部・支部長 瀧上隆智(九州大学)〕

© 2016 The Chemical Society of Japan



講演中の酒井秀樹先生(東京理科大学)



議論中の松木均先生(徳島大学)